

エクストリームチャレンジ in 四国の右下2011

オープンクラス優勝チームコメント

サニーサイトsantaよんたゴタ 齋藤 祐介 さん

私たちのチーム名は「サニーサイト信濃santaよんたゴタ」です。・・・な、なんと、今回、1日目のオープンクラスで優勝することができましたー。アザース。

まずはチームの紹介でございますが、リーダーは四十？才の一番年寄りですが一番馬力のあるハギさん、そんな暴れ馬の手綱を引く冷静沈着な三十？才のイッポンさん、そして、わたしはその馬車に乗るずる賢い三十？才のサイトウでございます。みんなそれぞれ家族を持っています、カミさんの顔を伺いながら・・・隙をみて遊んでいる、そんな輩でございます。そんな中、このたび優勝できたことはきっとそれぞれにとって、いや特に我が家にとっては、とっても意味のあるものとなりました。・・・なぜなら、父ちゃんはただただ道楽で遊んでいるのではないぞーと家族に知らしめることができたからでございます。チーム紹介はこのくらいにしておきます。

さて、今回のコースですが、一番印象に残ったのはCP11からCP16まででしょうか。好きです・・・こういうの。

わたしたちは夕暮れ時のまだ明るい時間帯に抜けたのでよかったのですが、暗くなってから入ったチームは大変だったので・・・。特にCP15とCP16の間はトゲ地獄で引っかき傷だらけになってしまいました・・・。ゴールした時、グッドタイミングな花火は演出ですか？スタッフの若い女性陣（・・・全員）のスマイルにも癒されましたー。

PASCOのパンおいしかったなあ。次回もぜひお願いします。同人二人のみなさん、ものすごい体力っすね。ずっと走っていました？

2日目はイッポンさんファミリー（カエちゃん、マー君）と一緒にファミリーカテゴリで参戦しました。天気も良かったし、電車を使っのんびり散策・・・なんて思いきや、イッポンさんは我が子を思いっきり走らせります・・・容赦ありません。カエちゃんは最後まで1人で走りきりました。マー君も後半は父ちゃんに背中を押されながらもペソをかくことなく走りきりました。そして時間内に完走することができました。・・・結果はなんとファミリーカテゴリでも優勝しちゃいましたー。アザース。しかし、ものすごいファミリーと一緒に走ったなー。

最後に・・・我部さんはじめスタッフのみなさん、準備から片付けまで本当にご苦勞様でございました。今回お会いしたチームのみなさんも四国大会本当にお疲れさまでした。また会いましょー！！

オープンクラス参加チームコメント

メッシュA 吉田 雅人 さん

「やばい、ちょっとウルウルしてきた。まだゴールしたわけでないのに。」黒川が言った。

最後の山CP15を登り切り、CP16を無事通過し、あとはCP17を残すのみ、ようやくゴールが見えてきた。念願の完全完走だ。

昨年、新聞記事で開催を知ったアドベンチャーレース。草野球仲間とマラソン仲間に声を掛け、2チームを結成、チーム名も草野球チームと同名のメッシュに。

トレイルラン、カヤックの経験があるものもいるが、もちろん誰一人、レース経験などない。「カヤックがやってみたい。MTBおもしろそう。」そんな軽いノリでの参加であった。

それなりに体力に自信はあったが、現実はその甘くはなかった。序盤はなんとか乗り切ったが、ろくに地図も読めない、コンパスも使えない僕達は、山中で途方に暮れ、制限時間に間に合わず、結局2回のショートカットの末のゴールであった。

あれから一年、読図の本を購入し、回し読み、また2週間前には、昨年、走ることさえ許されなかったCP13以降をコンパス片手に試走、準備を整えた。

いよいよレース本番。序盤はまぜのおか周辺のトレッキング。ウォーミングアップのつもりでゆっくりとしたスタート。

再びまぜのおかに戻ったあとは、MTBセクション。地元の祭りで賑わう海岸沿いの松林を疾走し、国道を経由して遊遊NASAの駐車場、CP6へ到着。

ここで新たな地図と指示書を受け取る。カヤックを含むA～FそれぞれのCPに、未だ明かされていないCP11～17の位置が記載されているという。ブリーフィング時にはカヤックセクションが記載されておらず、コース自体も短い気がしたが、なるほどこういうことだったんだと。

僕は混んでいるカヤックを後回しにし、遊歩道を駆け上がる。ちょうどその頃から昨年チームを引っ張った野村が足の不調を訴え、遅れ始める。

少々ペースは落ちたものの順調に通過し、カヤックは事前予想通り、那佐湾。スタート地点はやや波がある。さらに帰ってきた一艇が目の前でひっくり返る。

少々怖気づいたものの少し進めば、穏やかな海。時折休憩しながら、カヤックを満喫。

無事、CP11以降の地図も手に入れ、再びMTBセクション。ホテルで有名な母川沿いを進む。（道中3文字のキーワードもほ・た・る・でした。）

CP10兼CP14到着。MTBを置き、さあいよいよ山の区間、読図の成果が試される。ちょうど降り出した雨。カップ、ヘッドライトを装着、林道入り口のCP11でチェックを受け、CP12へいざ出発。

まずは、斜面を登り、尾根をそのまま西進。CP12へは別のチームとほぼ同時に到着。

ここで武富から「そのままCP13に向かうのは難しい。いったん山を降りて再度CP13のピークを目指せばどうか？」との提案。ここをくだるの？とやや渋る人もいたが、地図を見る限り、僕たちの力では直接CP13に向かうのは難しいと南へ下ることを決断。結果的にはこれが完全完走の決め手となった。

予想以上の厳しい下り、中にはお尻で滑って行く人もいるくらい。沢が現れ、ようやく傾斜がなくなってきた矢先、目の前に巨大なコンクリートの壁。5mほどの高さの砂防ダムだった。なんとか横から上り事なきを得たが、見えた瞬間は正直、今年も終わったなと。。。

しかしそれを越えると目の前には民家の明かりが！俄然元気が出る。が、関門時間は刻々と迫っていた。野村の足も限界に近い。

CP13へは東側から上ることを選択、とにかく上ればピークにつくはず。道中は地図もコンパスも見ず、会話もほとんど無くひたすら登る。ついにCP13到着。個人的には一番うれしかったがこんなところで喜んではいけない。残り時間は30分弱。

間に合った！ 19時27分、CP14到着。関門3分前の到着であった。

黒川はCP16を越えてウルウルきたと言ってたが、僕は既にこの時点でウルツときてしまっていた。

念願の完全完走。もちろん一人では到底達成できるはずもなく、チームみんなで勝ち取った完全完走。

人間、達成するとすぐに欲が出るもので、早くも来年は3位を目指そう！との声も出ている。中には「来年は徳島市内から応援します。」と言ってる人も。

最後に、悪天候にもかかわらず、選手のリフォローをしていただいた、関係者、スタッフの皆様、大変お世話になりました。来年もよろしくお願いします！